

国別デマンドサイド分析 2006 (2)

— 中国 (銅) —

企画調査部 調査課長 神谷 夏実
kamiya-natsumi@jogmec.go.jp

はじめに

BRIC's 諸国 (ブラジル、インド、ロシア、中国) は、世界人口の約 40 %にあたる 27 億人の人口、世界 GDP の約 10 %を占める巨大な経済圏からなり、世界経済、資源需要に大きな影響を与えると考えられている。「国別銅デマンドサイド分析」は、これら BRIC's 諸国における銅の需要動向について調査したものである。本稿は第 1 回目として、中国の銅の需要動向を紹介する。

1. 概要

1-1. 中国銅業界の現状

中国銅業界の世界に果たす役割が益々大きくなってきている。現在、世界最大の銅及び銅加工材の生産国ないし消費国である中国は、製錬及び加工能力が急速に成長し、資源の逼迫が深刻化しており、それが中国銅鉱業の持続的成長の足かせになっている。そこで中国政府は一連のマクロコントロール政策を発表し、この問題に歯止めをかけ、産業構造の調整と業界自体の競争力を高めるための努力を続けている。

●銅資源

『Mineral Commodity Summaries』(2006 年 1 月)によると、2005 年の世界の銅埋蔵量は 4 億 7,000 万 t、中国の銅埋蔵量は 2,600 万 t で、中国の銅埋蔵量は世界第 7 位とされている。世界で銅埋蔵量が最も多い国々は、チリ (1 億 4,000 万 t)、米国 (3,500 万 t)、インドネシア (3,500 万 t)、ペルー (3,000 万 t)、ポーランド (3,000 万 t)、メキシコ (2,700 万 t) である。

国土資源部興産資源埋蔵量司が 2003 年に発表した資料によると、中国全土で埋蔵量のある鉱区は全部で 994 か所、2003 年現在の確認済みの資源埋蔵量 (銅金属量、以下同じ) は 6,708.7 万 t、その内訳は資源量が 3,705.7 万 t、基礎埋蔵量 3,003 万 t、埋蔵量 1,786.6 万 t である。埋蔵量のうち銅含有が 1 %以上の高品位銅鉱床の埋蔵量はわずか 885 万 t で、上位 6 位は江西・安徽・甘粛・山西・雲南・湖北の順になっているが、この 6 省の埋蔵量の合計が全国銅総埋蔵量の 65 %を占め、どの省の埋蔵量も 100 万 t を超えている。

中国の精錬銅の原料には、国産銅精鉱、輸入銅精鉱、国内銅スクラップ、輸入銅スクラップ、輸入粗銅/陽極銅の 5 種類があるが、2005 年の中国銅原料の自給率はわずか 24 %であった。中国国内産の銅精鉱の銅含有量は、2010 年までは約 60 万 t/年で横ばいを続け、大きく成長することは難しいように思われる。国内産銅精鉱の深刻な不足が、中国の銅工業の成長を阻むボトルネックになっているとも言える。2005 年の中国銅精鉱

の生産量は 65.1 万 t (銅含有量) で、世界総生産量 1,499.3 万 t の 4.3 %を占めた。

●銅製錬

アジアの精錬銅生産量が 2005 年に 636.3 万 t に達し、初めて北米、南米を抑えて世界最大の精錬銅生産地域になった。国ごとの生産では、チリ (282.4 万 t)、中国 (258.3 万 t)、日本 (139.5 万 t)、米国 (124.5 万 t)、ロシア (100.8 万 t) が生産量上位 5 か国となっている。

中国は既に世界有数の銅製錬国であり、2005 年の中国の粗銅生産量は 160.5 万 t で世界総生産量 1,274.1 万 t の 12.6 %を占めた。精錬銅の生産量は 258.3 万 t で世界総生産量 1,659.9 万 t の 15.6 %を占め、チリに次いで世界第二の精錬銅生産国になっている。

中国有色金属工業協会 (CNIA) の資料によると、2005 年末現在、中国の精錬銅生産能力は既に 277.7 万 t に達し、2005 年の精錬銅生産量は 258.3 万 t、2004 年比で 19.1 %増となった。生産量上位 5 位までの省は、江西 (47.0 万 t)、安徽 (35.9 万 t)、雲南 (32.9 万 t)、甘粛 (23.8 万 t)、浙江 (22.4 万 t) である。

●銅加工

中国国民経済の持続的かつ安定した成長に伴い、中国の銅加工生産が急成長を遂げている。種類や規格が増え、製品生産量が増加し続け、急速な技術進歩を遂げつつある。こうして中国の国際的地位がますます高まって来ているが、特に 21 世紀に入って以来、中国の銅加工は高度成長期を迎え、既に世界有数の銅加工材の生産/消費大国としての地位を築き上げている。

World Metal Statistics によると、中国の状況を考慮に入れなければ、世界の銅加工製品の生産量は 2001 年から下降傾向にあり、しかも年平均減率は 8.4 %に迫り、2005 年の生産量は 800 万 t にも満たなかった。しかしながら、中国の銅材生産量の急速な成長により、こうした世界の生産量の減少がオフセットされ、最近 5 年間の世界の銅加工製品生産量は相対的に安定したものとなり、年平均下降幅も 0.5 %に止まっている。

2005年の生産量はおよそ1,290万tのレベルを維持している(表1、図1)。

表1 2001～2005年世界の銅加工材製品生産量

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
世界総計(中国を除く)	1,123.0	1,040.8	997.1	927.9	791.7
世界総計(中国を含む)	1,308.8	1,292.0	1,316.7	1,399.5	1,294.2

単位: 万t
出典: WBMS、CNIA、Antaika

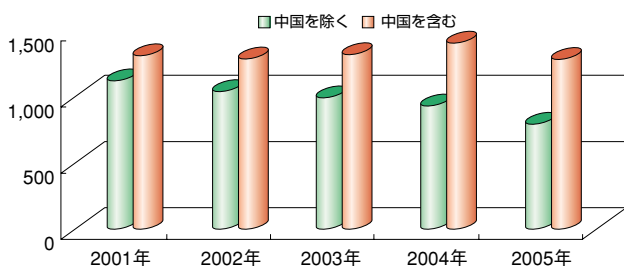


図1 2001～2005年世界銅加工材生産量(万t)

中国の2005年の銅加工材生産量は502.5万tで、世界の銅加工材総生産量の39.2%を占めた。中国有色金属工業協会(CNIA)の資料によると、2005年年末現在、中国の銅加工材の生産能力は既に665.7万tに達し、生産能力利用率は75.5%であった。

また、世界の銅加工材主要貿易国のうち、2005年の銅加工材輸出入量の合計が30万tの10か国のうちフランス・ドイツ・日本・韓国・カナダは銅材純輸出国で、中でもドイツと韓国の純輸出力が最大で、2005年の純輸出力はそれぞれ62.8万tと25.9万tであった。一方、イタリア・スペイン・中国・メキシコ・米国は純輸入国だが、中でも中国と米国は純輸入量が最大で、2005年の純輸入量はそれぞれ65.1万tと31.5万tであった。

1-2. 中国精錬銅需給の現状

2000年以降、中国の精錬銅の名目消費量は毎年平均30～40万tのレベルで成長している(表2)。2005年の中国精錬銅の生産量は258.3万tで、2004年比19.0%増であった。一方、名目消費量は約360万tで2004年比12.9%増であった。

表2 2001～2005年中国精錬銅の名目消費量

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
名目供給量	230.7	273.6	312.9	324.6	366.5
内訳: 生産量	152.3	163.2	183.6	217.0	258.3
輸入量	83.5	118.1	135.7	120.0	122.2
輸出量	5.1	7.7	6.4	12.4	14.0
消費量	220.0	260.0	295.0	330.0	360.0
需給バランス	10.7	13.6	17.9	-5.4	6.5

単位: 万t
出典: CNIA、中国海関(税関)、Antaika

各国の精錬銅の需給関係のバラつきが、地球規模の精錬銅貿易の流れを決定するうえで最も重要な要素の一つになっている。2005年、中国の精錬銅輸入量は

122.2万tで、世界最大の精錬銅輸入量となった。

1-3. 近年の中国市場の銅需要の全体的推移

近年、中国市場の銅需要は安定成長を維持し、純増加量は平均年間で30万t超で、主に電力・家電・電子情報分野に使われている。こうした分野へのここ数年の巨額の投資と急成長により銅及び銅加工材製品の需要が増え続けているが、特に、電力不足がここ2～3年電力業界の投資を急増させ、銅需要を大きく牽引している形になっている。2005年の銅の電力業界における需要は全需要量428.8万tの59.1%を占め、2004年より1.3ポイント増えている(図2、3)。

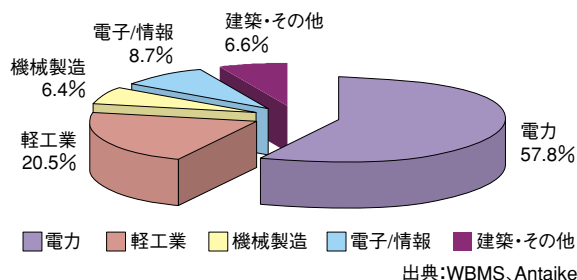


図2 2004年銅の消費構造

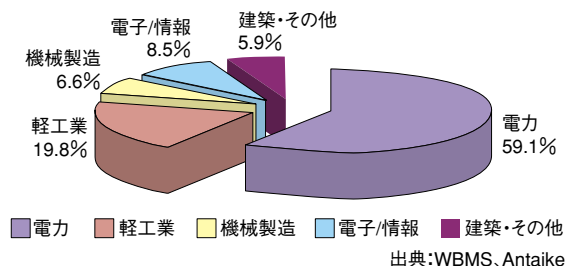


図3 2005年銅の消費構造

しかしながら、これらの急成長を続けた業界も今は安定成長期を迎え、特に国がマクロコントロールを強化して以降、盲目的な投資傾向が収まりを見せ始めている。2006年の中国の電力需要は8%～12%増で、増加幅は2005年のそれよりも下がることが予想されている。また、ここ3年というものの、国内のエアコン販売量が年々減り続け、販売総量は氷河期と呼ばれた2004年の2,460万台から2005年には2,390万台、2006年には更に2,268万台まで落ち込んだが、これは国内のエアコン市場が既に飽和状態を迎え、この分野の銅材需要も相対的に安定して来たことの表われである。また、銅価格高騰のあおりを受けて、国内建築分野の銅需要も以前ほど楽観視できない状況にある。

当然のことながら、今後数年のうちに中国経済は高度成長期から安定成長期に入ることになるが、それだからと言って中国の銅需要が減少するとは限らず、むしろこれまでの急激な成長が徐々に落ち着くこと、即ち、今後数年間で中国の銅需要は相対的に穏やかな成長期を迎えることになる。

2. 中国銅加工業の現状

2005年の中国の銅加工業は引き続き安定成長を維持し、目下、世界最大の銅加工材の生産国と消費国としての地位をより強固なものにした。

2-1. 中国銅加工業の生産現状

2000年は159.7万tであったものが2004年には471.6万tに増えているが、この間、中国の銅加工材の生産量は毎年約31.1%のスピードで成長を続け、2005年には502.5万tの過去最高レベルを記録した。

2001～2005年期の銅加工業の全体的状況を総合的に分析してみると、この期間の銅加工材製品は主に珠江デルタと長江デルタ等の沿海地域で生産されていたが、2001年以降は浙江・江蘇・広東の3省が常に全国銅加工材製品の生産能力及び生産量の上位3位を占めるようになった。また、今は安徽・河南・山東・江西の生産量も急激に伸びており、近年は江蘇・浙江一帯の民間銅加工メーカーが安徽や江西に移転していること、また現地の銅製錬メーカーの多くが銅加工を始めていることもあり、こうした省の銅加工製品が急伸している。中国は2004年から世界最大の銅加工材生産国になっている(図4)。

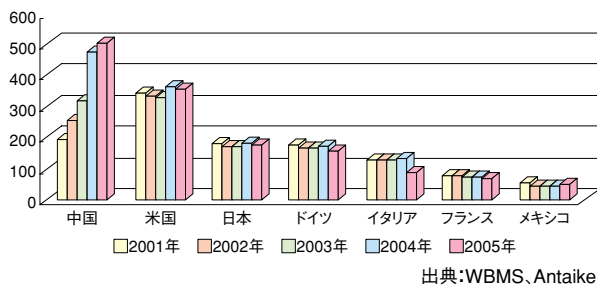


図4 2001～2005年世界主要銅加工材生産国の生産量(万t)

中国の銅材の生産状況を考えると、世界の銅材生産局面には根拠的变化が生じていることが分かる。即ち、世界の銅材生産量は2001年にはヨーロッパ・アジア・北南米でほぼ世界の1/3ずつを占めていたが、ヨーロッパの銅加工生産がアジアに大規模に移るにつれ、今やアジアの一挙手一投足に注目が集まるようになり、2005年にはアジアの銅加工製品生産量が世界の銅加工材総生産量の半分以上を占めるようになったが、中でも中国がその38.8%を占めている(図4)。

2-2. 銅加工材の製品構造

中国銅加工材の生産量の急成長と同時に、製品構造もどんどん調整され、最終的に現在の線/棒材・板/帯材・管材を中心とする産業構造が形成されるに至った。これらの製品は生産量が多いだけでなく、2001年以降、強い成長傾向を示している。

2001～2005年の期間、中国の銅加工材生産量は毎年平均28.2%の伸び率で成長した。中でも帯材(strip)生産量の年間平均伸び率は、この期間30.9%に達し、

管材(tube)の年間平均伸び率は30.0%、線材(wire)の年間平均伸び率は34.8%であった。同時に、中国の銅加工材の生産構造にも調整が加えられた。そのうち、線材(wire)の銅加工材総量に占める割合は2001年には32.4%であったものが、2005年には39.6%まで伸びている。また、管材(tube)の銅加工材総量に占める割合は2001年の19.8%から2005年には20.9%に伸びている。帯材(strip)の銅加工材総量に占める割合は2001年の10.8%から2005年には11.1%に上昇した(図5、6)。

目下の中国銅加工材のこうした製品構造は中国の電力・家電・自動車・建築・通信・エレクトロニクス等の分野の急成長と呼応した形になっている。今後の各関連産業の成長動向から見て、こうした産業構造はしばらく続くものと思われる。

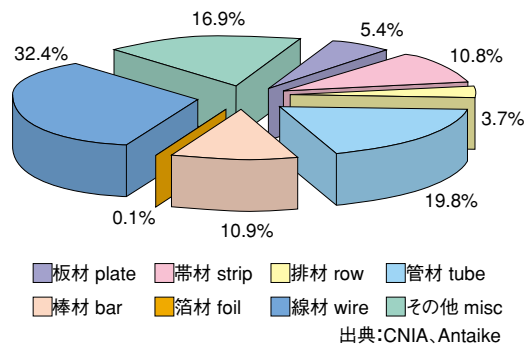


図5 2001年中国銅加工材の製品構造

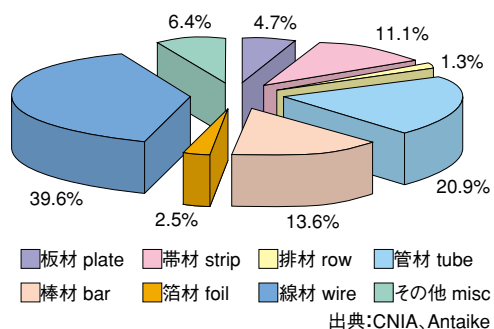


図6 2005年中国銅加工材の製品構造

2-3. 中国銅加工メーカーの技術装備の現状

中国の銅加工メーカーは国外の技術を導入・消化吸収することで自主開発の道を歩み始めている。業界全体の技術装備は充実し、今や後れた生産技術と設備はほぼ淘汰され、大鑄塊熱間圧延ビレット—高精度冷間圧延と水平連鑄ビレット—高精度冷間圧延板帯製造法、大鑄塊押し—高速圧延—垂直及び水平連鑄管ビレット—遊星圧延—垂直高精度管材製造法、連続鑄造圧延光沢銅ロッド製造法などが中国銅加工業の代表的な技術になっている。

全体的に見て、中国の銅加工業は外国技術の導入に努めたことと国産化により、その機械装備水準は既に国外の先進レベルに達しており、中でも銅加工設備の製造レベルはかなりの進歩を遂げている。また、大型/

精密機械の設計/製造能力も強化され、品質が良く廉価な国産設備が国内外のユーザーに歓迎されている。

中国有色金属加工工業協会は「第10次5カ年計画」期の中国銅加工技術と設備の状況につき、先進的なものと後れたものが併存した時期という評価を下している。洛銅集団等の代表的な銅加工メーカーの技術と設備は以前から国際的な先進レベルに達していたが、膨大な数の中小企業の技術と設備レベルは相変わらず1960年代のレベルに止まり、中国の銅加工工業は「規模は大きい競争力がない、規模は大きい精緻でない」という問題を抱えていた。国民経済が必要としている高品質で、精緻かつ先進的な製品はなお輸入に頼らなければならない状況にあったが、改革開放が進み、今では中国の銅加工工業もいくつか重要な技術進歩を遂げている。

また、近年、中国で開発された潜流式ピレット铸造—冷間加工という新製法の産業化が急速に進められているが、これには①投資額が少ない、②生産プロセスが短い、③金属消費量が少ない、④歩留り率が高い、⑤製造コストが低い等のメリットがある。

中国の精密銅管製造方法の最も際立った特徴としては工程の短さ、製品歩留り率の高さ、金属消耗の低さ、低投資が挙げられ、これらの優位性は国外の伝統的な押し—圧延—延伸法の比ではない。現在、中国は精密銅管の工業化を成し遂げ、しかも製造プラント全体の設備が供給でき、一貫した技術サービスが提供できるようになっている。

上述の銅加工材製造技術と設備の進歩が「第10次5カ年計画」期の中国銅加工材工業高度成長のベースとなっていると同時に、これからの中国の銅加工業のさらなるアップグレードのための条件になっている。

今後の中国の銅加工技術の全体的な方向性としては、中国を代表する銅加工メーカーがこれからも益々国外の先進技術レベルとの差を縮め、多くの中小企業が投資額は少ないが効果的で、中小型銅加工製造に対応した製造技術と設備で技術改造を進め、銅加工技術の急速な発展に対応していく、ということが考えられる。

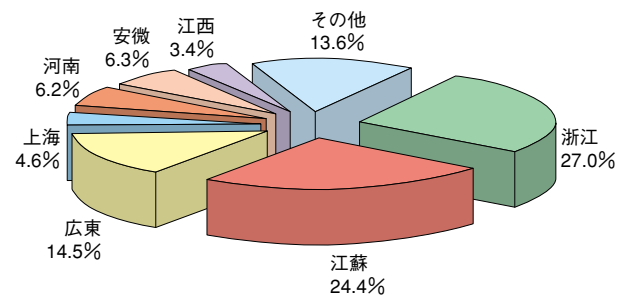
2-4. 中国銅加工メーカーの規模と競争力についての分析

現在、中国の銅加工材メーカーはまだ長江デルタ・珠江デルタ・環渤海地域に集中している。これらの地域は中国の中でも経済が相対的に発展している地域であり、中国加工業の三大生産センターでもあり、同時に銅消費の集中している地域でもある。2005年は江蘇・浙江・広東の3省の銅材生産量だけで全国の65.9%を占めた(図7)。

現在、中国で銅加工材製品の生産に携わる企業は多数あるが、それらは生産規模の小さなものが多く、産業集積度も低く、生産規模1.0万t以下の銅材メーカーが大多数を占めている。国家統計局の最新資料を見ると、2005年、銅加工材製品の生産に携わる企業は721

社を数えたが、各種銅材製品の当年の累計生産量が1万t(1万tを含む)以上の企業は111社、累計生産量が5万t(5万tを含む)以上の企業はわずか16社、累計生産量が10万t(10万tを含む)以上の企業はわずかに6社にとどまった(表3)。

中国銅加工材生産能力の稼働率も回復し、2004年には71.5%であったものが2005年には75.6%まで回復している(表4)。



出典:中国海関(税関)、Antaiko

図7 2005年中国銅加工材生産地域の分布

表3 2001～2005年中国銅加工材製品メーカーの規模(社)

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
全国の企業総数	232	287	448	580	721
内訳:10万t以上	0	2	3	4	6
5万t以上	4	6	7	8	16
1万t以上	44	58	76	98	111
1万t未満	188	229	372	482	610

出典: CNIA、Antaiko、2005年は国家統計局のデータ

表4 2001～2005年中国銅加工材生産量とその稼働率

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
全国銅加工材生産量(万t)	185.8	251.2	319.6	471.6	502.5
全国銅加工材能力(万t)	238.38	310.73	377.38	659.4	665.7
生産能力利用率(%)	77.9	80.8	84.7	71.5	75.5

出典: CNIA、Antaiko

上表から2005年の中国銅加工業界が生産量の安定成長を維持し、それをベースに企業規模を益々拡大し、市場競争能力が増強して来ていることが見てとれる。

3. 銅材消費状況及び各主要業界の銅消費構造

3-1. 主要銅材の消費状況(銅板/帯・銅管・銅棒・銅条)

中国が銅加工材生産大国であると同時に、世界最大の銅加工材消費国の一つであることは疑う余地のない事実である。最新の統計資料によれば、2001年～2005年の期間、中国銅加工材の名目消費量が毎年平均23.2%を超えるスピードで増え、2004年には500万t超となり、2005年には568万tまで上昇したが、今はその伸び率も鈍化し始めている(表5)。

表5 2001～2005年中国銅加工材の名目消費量

単位:万t

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
生産量	185.8	251.2	319.6	471.6	502.5
輸入量	73.1	91.8	105.6	119.5	119.5
輸出量	12.3	17.2	23.3	39.0	46.4
消費量	246.6	325.8	401.9	552.1	568.0

出典: CNIA、中国海関(税関)、Antaiko

名目消費量から見るに、銅板帯・銅管・銅棒・銅線が目下の中国銅加工材消費における4大カテゴリー製品になっている。中でも銅線は2005年の中国銅加工材総消費量の41.4%、銅板帯は同じく19.0%を占めている(図8、9)。

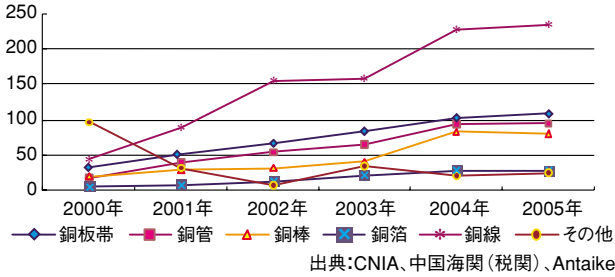


図8 2000～2005年中国銅加工材の名目消費量(万t)

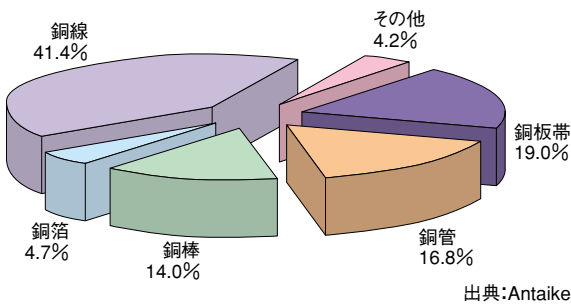


図9 2005年中国銅加工材名目消費構造

3-2. 各業界の銅消費の現状と消費量(電力・軽工業・機械・電子・自動車・家電・建築)

国家統計局の資料によると、2001～2005年までの間、主要工業製品の生産量の中で、内燃機・小型トラック・プログラム制御交換機以外の製品の年間平均伸び率は10.0%以上であった。中でも発電設備の年平均伸び率は46.0%、機関車の年平均伸び率25.7%、空調機器の年平均伸び率24.2%、マイクロコンピュータの年平均伸び率は53.3%であった。

4. 中国の銅貿易の現状と国内銅消費に及ぼす影響

4-1. 精錬銅貿易動向

●精錬銅輸出入(国・地域)

現在、中国は世界の40余か国及び地域の間で精錬銅の輸出入を行っているが、主な国及び地域の状況から見て、精錬銅の輸入は精錬銅の主要生産国とより密接に行われ、輸出はアジア諸国と地域が中心になっている。

2005年の精錬銅の輸入主要国及び地域のうちチリが総量の46.6%、カザフスタンと日本がそれぞれ13.3%と7.4%を占めた。一方、2005年の精錬銅の輸出主要国及び地域のうち韓国が総量の57.1%、香港と台湾がそれぞれ27.1%と10.0%を占めた(図10、11)。

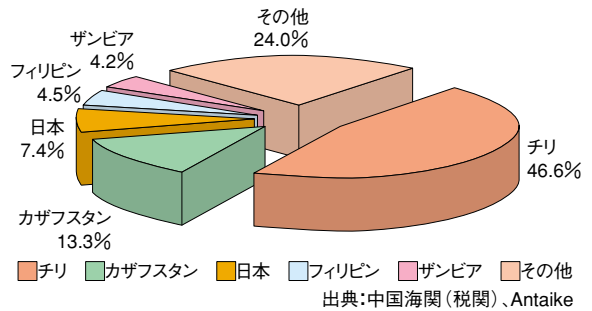


図10 2005年中国精錬銅輸入(国・地域)

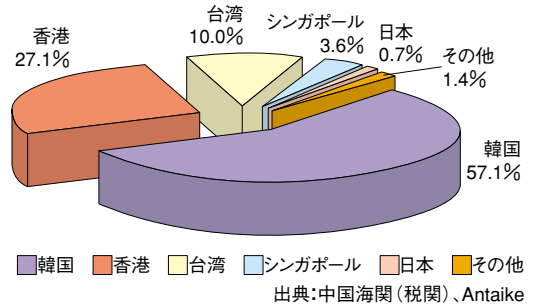


図11 2005年中国精錬銅輸出(国・地域)

●精錬銅輸出入(省・直轄市・自治区)

2005年の精錬銅を輸入した主要省市には上海・広東・新疆・北京・江蘇・浙江等があり、精錬銅を輸出した主要省市は上海・雲南・安徽・山東になっている。

2005年の上海・広東・新疆3つの省市の精錬銅輸入量は92.6万tに上り、輸入総量の75.8%を占めた。一方、上海・雲南2つの省市の精錬銅輸出量は10.1万tで、輸出総量の72.1%を占めた(図12、13)。

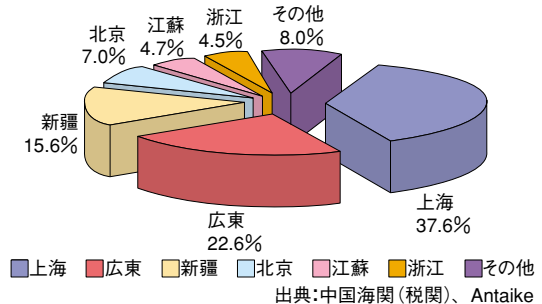


図12 2005年精錬銅輸入(省・直轄市・自治区)

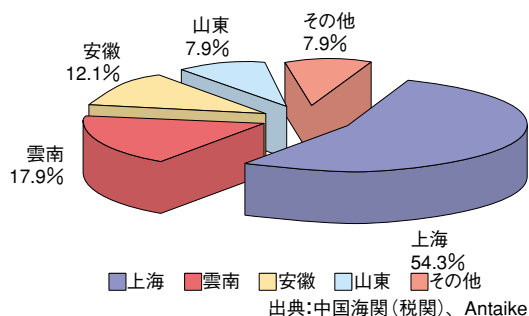
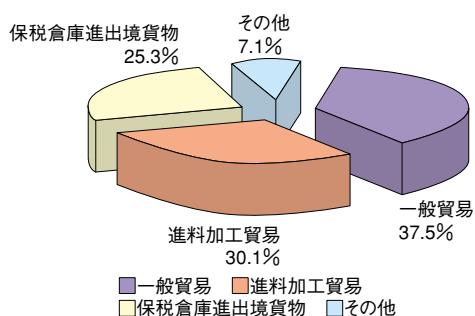


図13 2005年精錬銅輸出(省・直轄市・自治区)

●精錬銅輸出入（輸出入方式）

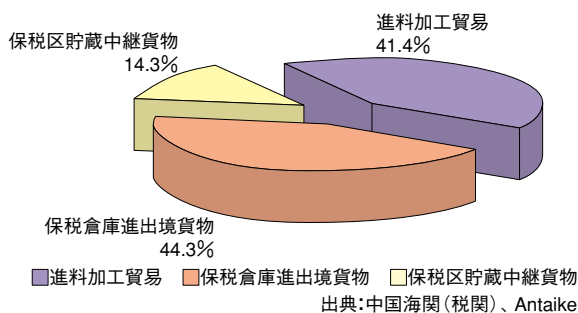
2005年の精錬銅の輸入は一般貿易・進料加工貿易（原料売買型委託加工貿易）・保税倉庫貨物の三つの方式を中心に行われ、輸出では主に進料加工貿易・保税倉庫貨物が行われた。

2005年の精錬銅の輸入総量122.2万tのうち一般貿易・進料加工貿易・保税倉庫貨物という三つの方式で輸入した精錬銅が、それぞれ当年輸入総量の37.5%、30.1%、25.3%を占めた。一方、2005年の精錬銅輸出総量14万tのうち進料加工貿易・保税倉庫貨物方式で輸出した精錬銅はそれぞれ当年輸出総量の41.4%と44.3%を占めた（図14、15）。



出典:中国海関(税関)、Antaike

図14 2005年精錬銅輸入（輸入方式）



出典:中国海関(税関)、Antaike

図15 2005年精錬銅輸出（輸出方式）

4-2. 銅材貿易動向（精錬銅材と合金材別、国・地域別、貿易方式別）

中国税関の商品コードのうち、輸出入に関係のある銅加工材製品は合計38品目あり、この38の銅加工材製品は七つの大カテゴリーに分けられる。即ち、銅粉（8種）、銅条/棒/型材及び異型材（4種）、銅線（5種）、銅板/片/帯（8種）、銅箔（6種）、銅管（4種）、銅管付属品（3種）。

中国税関の統計資料を分析すると、2000年から中国の銅加工材製品の輸出入が活発になり、輸入量と輸出量ともに年々増え始めている（表6）。2000年から2005年の期間、銅加工材製品輸入量は毎年平均8.9%の伸び率で増え、銅加工材製品の輸出量は毎年平均26.4%と急増している。ただし、この間中国はずっと銅加工材製品の純輸入国で、2003年から純輸入量が明らかに減少し始めている。

表6 2001～2005年中国各種銅加工材の輸出入量

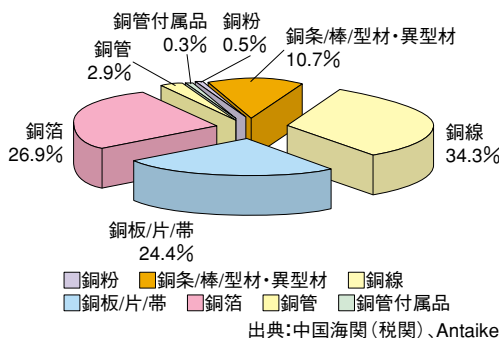
単位:万t

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
輸入総量	73.1	91.8	105.6	119.5	111.9
輸出総量	12.3	17.2	23.3	39.0	46.4
純輸入量	60.8	74.6	82.3	80.5	65.5

出典:中国海関(税関)、Antaike

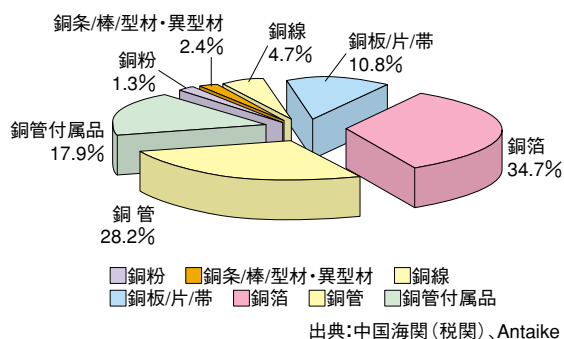
銅管と銅管付属品の2カテゴリーはまだ純輸出状態にあり、しかも純輸出量はますます拡大傾向にある。一方、その他の5カテゴリーの加工材製品はいずれも純輸入状態にあるが、純輸入量は2005年から減少し始めて来ている。

銅加工材製品の輸入は銅条/棒/型材及び異型材、銅線、銅板・片・帯、銅箔が主で、2005年のこれら4種類の銅材料製品の輸入量は、同年の銅加工材輸入総量のそれぞれ10.7%、34.3%、24.4%、26.9%を占めた（図16）。一方、銅加工材製品の輸出は、銅版・片・帯、銅箔、銅管、銅管付属品が主で、2005年のこれら4種類の銅材製品の輸出量は、同年の銅加工材輸出総量のそれぞれ10.8%、34.7%、28.2%、17.9%を占めた（図17）。



出典:中国海関(税関)、Antaike

図16 2005年輸入銅加工材の製品構造



出典:中国海関(税関)、Antaike

図17 2005年輸出銅加工材の製品構造

●銅材料輸出入国及び地域

現在、中国は世界の100以上の国及び地域と銅加工材の輸出入を行っているが、主に周辺諸国及び地域と密接な交易が行われており、台湾・韓国・日本に集中している。

2005年の銅加工材製品輸入の主な相手国及び地域の中で、台湾が総量の36.0%、韓国と日本がそれぞれ

19.8%と7.4%を占めた。また2005年の銅加工材製品輸出先の国及び地域の中では、香港が総量の40.3%、米国と韓国がそれぞれ8.8%と7.8%を占めた(図18、19)。

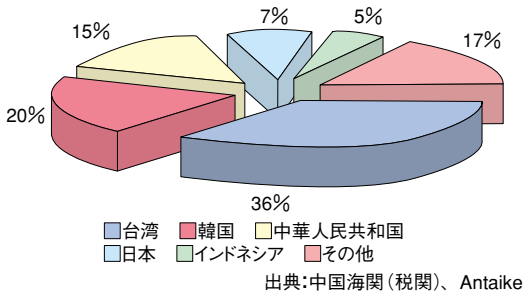


図18 2005年銅加工材の輸入国及び地域

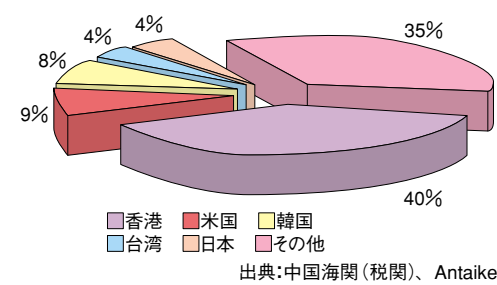


図19 2005年銅加工材の輸出国及び地域

● 銅材料の輸出入方式

貿易方式で見ると(表7)、中国の銅材料製品の輸入は進料加工貿易と来料加工貿易の2方式が主で、輸出は進料加工貿易と一般貿易の2方式が主流になっている。

表7 2001~2005年中国の各種銅加工材の輸出入量(貿易方式別)

単位: 万t

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	
輸入	総量	73.1	91.8	105.6	119.5	111.9
	進料加工貿易	31.9	39.8	48.1	59.1	60.1
	来料加工組立貿易	27.5	32.9	35.3	36.0	33.1
	一般貿易	6.8	6.6	7.8	11.0	8.7
	保税貯蔵中継貨物	1.4	3.0	5.1	8.6	8.4
	国境小額貿易	5.1	9.0	8.6	3.8	0.1
	その他	0.5	0.6	0.7	1.0	1.5
	輸出	総量	12.3	17.2	23.3	39.0
進料加工貿易		6.9	9.5	12.4	20.9	24.8
来料加工組立貿易		1.9	1.9	2.2	3.1	3.0
一般貿易		3.4	5.7	8.4	14.1	17.6
その他		0.2	0.2	0.3	0.9	1.0

※進料加工貿易は、委託加工貿易の一形態で、原材料を買取って輸入、加工し、再輸出すること。来料加工貿易は、原材料の提供を受け加工し、再輸出し加工賃を得ること。

出典: 中国海関(税関)、Antaike

2005年に進料加工貿易と来料加工貿易の2方式で輸入された銅加工材製品は、同年の銅加工材料輸入総量のそれぞれ54%と30%を占め、2005年に進料加工貿易と来料加工貿易の2方式で輸出された銅加工材製品は、同年の銅加工材料輸出総量のそれぞれ54%と6%を占めた(図20、21)。

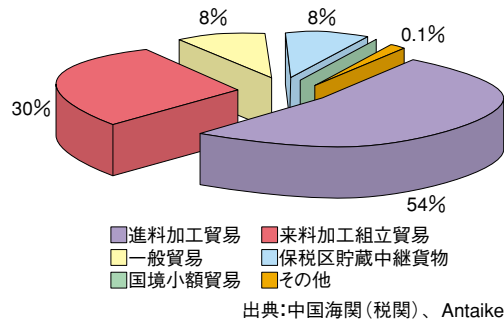


図20 2005年銅加工材の輸入方式

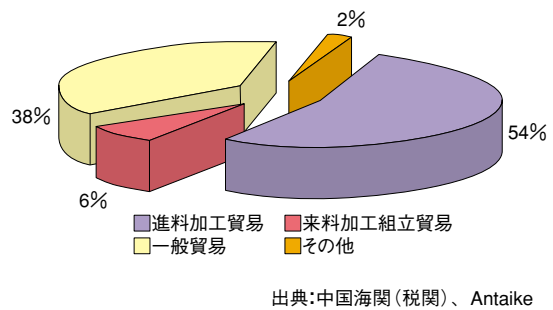


図21 2005年銅加工材の輸出方式

4-3. 銅貿易の国内銅消費に対する影響

中国の銅及び銅加工材の輸出入は、一方で国内消費市場に対する調節を行いつつ、もう一方で市場需要を反映したものになっている。

中国経済及び関連産業の着実な発展によって2005年の銅及び銅加工材の旺盛な市場消費が下支えし、銅及び銅加工材輸出入が活況を呈したが、2005年の輸出入全体を見ると、それ以前の銅及び銅加工材の高度成長の消費が若干スピードダウンして来ている。

5. 今後の銅需要に影響を及ぼす可能性のある主要要素

5-1. マクロ経済的要素

この3年間の全体的なマクロ経済政策を見てみると、投資の過熱防止が常にマクロコントロールの最重要課題となり、また、経済の構造的な問題もますます政策決定者の関心の的になっていることが分かる。国のマクロコントロールは、非鉄金属業界、特に鉱山・製錬が重点対象の一つになって来ている。政府の一連の政策はどれも固定資産投資の成長スピードを抑制するためのものとなり、それにより経済体制改革を一層進め、経済構造の調整を加速し、経済成長の方式を転換し、年間を通して「安定しつつも比較的高い成長率」という局面を引き続き維持しようとした。

全体的には、中国の経済発展は依然良好であると言える。経済学者の予測では、2006~2010年にかけて中国の経済成長は穏やかに減速し、成長率は年平均8~8.5%の間で推移することが予想され、「第11次5カ年計画」の全期間を通じて、中国経済は穏やかな変動化と調整期を迎えることになる。

5-2. 銅消費業界の発展状況

「第11次5カ年計画」を総体的に見た場合、中国経済はこの期間も引き続き安定成長し、電力・家電・機械製造・電子・建築・自動車等の主な銅消費業界も適度に成長するものと思われる。しかし、今後は鉄道設備を中心とする機械製造分野にむしろ成長のチャンスが見込まれ、関連の通信/電子製品及びインフラ等の銅使用製品に対する需要が刺激されることになるが、これらの業界に巨額の投資がもたらされる歴史的なチャンスということにもなる。

5-3. 政策的要素（輸出入関税や産業政策など）

2006年4月10日から中国政府は、精錬銅と銅合金の輸出暫定税率を5%から10%に、一部の銅材料の輸出暫定税率を0%から10%に引き上げた後、2006年9月14日、財政部・国家発展改革委員会・商務部・税関総署・国家税務総局などの五つの中央省庁が「一部商品の輸出税増値税還付率の調整と加工貿易禁止類商品目録増補に関する通知（財税[2006]139号）」を合同で公布し、9月15日から輸出税増値税還付を調整することを決定した。それと同時にそれ以前に既に輸出税増値税還付が取り消されているものや、今回輸出税増値税還付が取り消された商品が加工貿易禁止類目録に収録された。なお、加工貿易禁止類目録に収録された商品はすべて輸入関税と輸入税が徴収されることになる。

財政部はさらに10月27日には税委会[2006]30号通知を公布し、2006年11月1日から一部の輸出入商品の暫定関税率を調整することを決定した。今回の輸出税率調整は、以下の銅製品に関係しているが、調整後の暫定税率は銅精鉱、主に銅を含有する煙灰と残滓は10%、硫化銅、沈殿銅（泥銅）、未精錬銅、電解精錬用銅陽極、銅スクラップとシュレッターダストは15%に変更された。

以上から、中国政府が資源不足と需要増加が中国銅工業における矛盾の根源であるという点にますます注目していることが分かる。しかもこの問題を解決するために、中国政府は当面の銅工業の方向性として、銅製錬業界の盲目的な投資を抑制すると同時に、銅製品の輸出入を増やし、特に輸出政策の調整により国内市場のニーズを満たすこととしている。

5-4. その他の要素

中国経済の全体的な環境は依然として銅使用製品の需要の着実な増加に向けて有利に働いているが、その他の要素が一部業界の銅使用製品需要に対し段階的に影響をもたらす可能性がある。例えば、2006年7月1日から正式に実施されたEUの環境規定——RoHS指令（電気・電子機器における特定有害物質の使用の制限に関する指令）では、ヨーロッパ市場向けに出荷する電子/電気設備（免除製品を除く）中の鉛・水銀・カドミウム・六価クロム・ポリ臭化ビフェニル・ポリ

臭化ジフェニルエーテルの6種の有害物質の含有量が規定限量を超えてはならないとされ、いったん検査・測定結果の不実または6種の有害物質の限量超過が発見された場合、ブラックリストに収録されるか、または全ヨーロッパに輸入と販売の禁止が通報され、しかも巨額の罰金が科されることになる。RoHS指令は、2005年8月13日に実施された「廃電気・電子設備に関する指令（WEEE）」に比べて、はるかに厳しい規制になっている。

また、2007年8月から実施予定の「エネルギー使用製品指令」（EUP）は、WEEEとRoHS指令に比べ、産業チェーン全体への影響が更に大きくなることが考えられる。なぜなら「製品ライフサイクル」という考え方を初めて導入しているEUP指令は、主に製造工程に対応したもので、製品の設計から製造、使用及び廃棄処理に至るまでの全過程での省エネルギーと環境保全を実現することを義務づけているからである。

なお、EUからのプレッシャー以外に、中国製品に対する相次ぐ反ダンピング措置も一部の銅使用製品に対し影響を及ぼすことが考えられる。例えば、トルコは2006年7月31日、今後全ての中国ブランドのエアコンについて25%のダンピング防止税を徴収する決定を下した。薄利多売の中国エアコン業界からすれば、25%のダンピング防止税はトルコ市場から中国のエアコンメーカーがシャットアウトされることを意味するものである。

中国メカトロニクス輸出入商会の予測では、RoHSとWEEEの二つの指令は20万品目近い製品と関連があり、中国の電子/電器製品の輸出額560億\$に直接影響を及ぼし、しかもEUPの影響はこの数字をはるかに上回るとしている。したがって、中国がもしEUなどの地域へこれらの製品を輸出することを諦めた場合、これらの製品に使われる銅材料需要量は新たな消費チャンネルを見つけられない限り、徐々に減少していくことが予想される。

6. まとめ

中国の銅生産業界の世界に果たす役割は益々大きくなっており、製錬、加工分野が急速に成長してきた。近年中国の銅需要は安定成長を続け、需要増加量は年平均で30万tを超え、主に電力・家電・電子情報分野で使われている。同時に、原料資源、電力・エネルギーの逼迫が深刻化し、これが中国銅工業の持続的成長の足かせになっている。そこで政府は、一連のマクロ経済コントロールの政策をとり、産業構造の調整と業界自体の競争力を高めようとしている。この結果、急成長を続けた銅業界も、最近では安定成長期を迎え、政府のマクロコントロールの成果が現れ、盲目的な投資傾向も収まりを見せ始めている。今回のマクロ環境及び市場動向の調査では、中国経済の発展が重要なターニングポイント及び戦略的転換期を迎えていることを示しており、これは中国経済が既に高度成長期から

持続的な安定期に入ったことの現われともいえる。

一方、中国の銅加工材中の含銅消費量はすでに 600.0 万 t を突破し、2010 年に 770.0 万 t、2015 年には 980 万 t に達することが見込まれており、中国の銅産業は、依然として世界の銅産業の中で重要な位置を占めることになると見られる。

(2007.8.1)

